

平成30年度 事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

2. 国際協力事業

① JICA課題別研修アフリカ地域「小規模農家のためのアグリビジネス振興(B)」コース

研修員受入事業

<7月4日(水)～8月15日(水) 43日間 於:滝川市内外>

平成23年度から受託を開始し、第3期2年目(通算8年目、フランス語圏対象では3年目)も、フランス語圏4カ国(ブルキナファソ共和国、チャド共和国、コンゴ民主共和国、ギニア共和国)から研修員を受け入れ、元北海道農業改良普及員 峯岸 三枝子氏並びに木下 初子氏、酪農学園大学 教授 阿部 茂氏、中野ふぁ～む、中村農園、山木ファーム、江部乙農産物加工研究会手作りの家とまと、滝川市社会福祉事業団滝川新生園、空知農業改良普及センター中空知支所、北海道中央農業共済組合中空知支所等、滝川市内外の関係機関ご協力の下、農業及びこれに関連した農産物の市場、流通、農産品加工等幅広い知識を身に付けるため、実習・視察研修等を実施した。

また、7月21日(土)にはホームビジット、8月11日(土)にはたきかわ納涼盆踊り花火大会に参加し、市民交流も図った。

受入人数:5名(研修員4名、研修監理員1名)

○ 7月 5日(木) インセプションレポート発表会 於:JICA北海道センター(札幌)

○ 8月13日(月) アクションプラン発表会並びに送別会 於:ホテル三浦華園

② JICAモザンビーク国別研修「農業技術促進を通じた農村開発セミナー」コース研修員受入事業

<8月9日(木)～9月13日(木) 36日間 於:滝川市内外>

平成23年度から受託を開始し、第3期2年目(通算8年目)も、引き続きアフリカ・モザンビーク共和国から研修員8名を受け入れ、暑寒の森 道づくり研究所で実習・視察等を行った他、元北海道農業改良普及員 峯岸 三枝子氏並びに木下 初子氏、酪農学園大学 教授 阿部 茂氏の講義や、中央農業試験場遺伝資源部、伊藤農園、白水農園、ノザワ農場、ホクレン滝川種苗生産センター、空知土地改良区、花・野菜技術センター、JAたきかわ、滝川地方卸売市

場、滝川市内外の農業関係機関の視察や農業者による実習指導を通して農業技術習得を図った。

研修中の9月6日(木)には北海道胆振東部地震に見舞われ、全道停電が続く中、公益社団法人滝川スカイスポーツ振興協会やこすもす観光バス等、当協会会員をはじめとする市内外の皆様から心強いサポートをいただき、体調を崩す研修員も出ず、無事に研修を終えることができた。



また、8月18日(土)のインターナショナルファンデーや8月25日(土)のホームビジットを通して、相互文化交流も行った。

受入人数：9名(研修員8名、研修監理員1名)

○ 8月10日(金) インセプションレポート発表会 於：JICA北海道センター(札幌)

○ 9月11日(火) アクションプラン発表会並びに送別会 於：ホテルスエヒロ

③ JICA青年研修事業「モンゴル自然環境保全コース」研修員受入事業

<11月14日(水)～12月1日(土)18日間 於：滝川市内外>

将来の自然環境保全分野の中核を担う青年層12名の研修員が来滝し、滝川市内の中空知衛生施設組合リサイクルクリーン、雨竜沼湿原を愛する会会長 佐々木氏、酪農学園大学農業環境情報サービスセンター長 金子氏など滝川市内外の関係者・関係機関の協力の下、廃棄物処理や生物多様性を意識した自然環境保全・管理の手法などについて学んだ。今回、JICA北海道としては初めて、アクションプラン発表会を映像による「ビデオレポート報告会」として実施し、当地の良さを再発見する機会にもなった。

受入人数：13名(研修員12名、研修監理員1名)

④ 身近なものによる国際協力

古切手、書き損じはがきを収集し、道内在住の切手収集家に送付。開発途上国の教育・保健医療等の活動支援に役立てている。

<7月12日(木) 於：滝川市役所>

市内在住の伊藤 琢治氏より使用済み切手5kgを寄贈していただいた。

⑤ NGO等支援事業

「北海道NGOネットワーク協議会」やマラウイ共和国等を視察した市民から成る「滝川マラウイクラブ」、アフリカ・ケニア共和国を支援している「山

ロケニアを知る会」等、開発途上国を支援しているNGO団体等と連携を図り、国際協力活動への支援を行っている。